

～文化政策史研究会・第2回公開勉強会～

日 時：2005年9月10日（土） 午後3時～6時

場 所：東京大学本郷キャンパス 法文1号館115教室

内 容：「アーカイブの構想—伊東忠太のフィールドノートにみる戦前文化財保護制度」

◎ 報告者 — 盧詩梅（ルー・スーメイ、コーネル大学大学院博士課程）

・発表要旨

我々はいかに文化財を「文化財」として理解しうるのか。

周知のように、伊東忠太は戦前における文化財制度の形成過程で中心的役割を果たした人物のひとりである。彼は古社寺保存に際し、政策の立案よりも古社寺の建築の調査を実施した。つまり、伊東は古社寺に関する「知」＝アーカイブを生産したのである。この「知」＝アーカイブを通じ、文化財は「モノ」として生産され、同時に文化財を「モノ」として理解することが可能になるといえよう。

今回の報告は、伊東によって旧国宝・首里城に関して作られた「知」に着目したい。彼の残した「フィールドノート22—琉球」（1924年）と、このノートを踏まえて書かれた彼の論文の分析を通じ、日本の戦前文化財制度における政治性をこれまでとは少し異なる角度から考えたい。

◎ 討論者 — アラン・クリスティ（Alan Christy）氏

（カリフォルニア大学サンタ・クルーズ校准教授、東京大学大学院人文社会系研究科客員助教授。

近著に、網野善彦「Rethinking Japanese History」〔監訳、ミシガン大学日本研究センター〕など。)

参加費：無料（当日、飲み物代としてカンパをお願いいたします。）

参加申込：下記連絡先までメールまたはFAXにて
お願いいたします（「公開勉強会参加希望」
とご記入の上、お名前・所属を明記ください）。

・メールアドレス

…bunkaseisakushi@yahoo.co.jp

・FAX …03-5841-1251

申込期限：9月8日

（会場の都合により先着20名とさせていただきます）

お問合せ：新藤（bunkaseisakushi@yahoo.co.jp）

主 催：文化政策史研究会



会場案内図

地下鉄丸ノ内線・都営大江戸線 本郷三丁目駅
地下鉄南北線・東大前駅よりともに徒歩10分

—「文化政策史研究会」について—

日本の文化政策に関しては、近年文化史、近現代史、教育史など様々な領域で個別に研究が進められていますが、明治期から現在までを視野に入れた通史的・包括的な文化政策研究は、これまで体系だった形で行われてきませんでした。

そのような、いわば「文化政策史」の視点に立った研究を模索してゆくために、昨年、関心を持つ若手研究者・大学院生を中心としたメンバーが集まりました。一年あまりにわたる勉強会を通じ、私たちの課題が既存の学問領域・方法論との関連をもつ分野であることはもちろん、近年の文化政策の進展からみても、「歴史」研究にとどまらない極めて現代的な課題である、との認識を深めてきました。

そこで、これまで私たちが行ってきた個人研究及び集団討論のプロセスを公開・共有することで、文化政策を論じる枠組みについてより豊かに議論を構築していきたいと考え、公開勉強会を開くことといたしました。内容は、研究会メンバーの報告と、それを受けて関連分野の第一線の研究者を討論者に迎えての対話で構成します。参加者との質疑の時間もできるだけとりたいと考えております。

文化政策史研究会メンバー同

▽第1回公開勉強会…「戦争期日本の文化外交と宝塚少女歌劇団の海外公演」2005年7月9日、於 東京大学
・報告者：朴祥美（プリンストン大学大学院博士課程）・討論者：戸ノ下達也氏（洋楽文化史研究会）